

## 捻じ曲げられる真実と見破る目

原 智代（ご近所ぐらしオムソーリ研究所）

メディアが本当のことを言わないことがある、隠すことがあるなど、以前は思ったことが無かった。教科書は正しいことしか書いてないし、新聞もみな、真実を書いていると思っていた。

特に新聞は、父が新聞社に勤めていたこともあって、深夜に帰宅するときに持ち帰ってくれる温かさの残る第1版が楽しみだった。

小学生のころから毎日、目を通すことが当たり前のこと。

「新聞は間違いない」は、信仰に近い物があった。

でも、10年近く前に初めて沖縄に行き、南部の資料館に行くとそこには、知らないことしか書いていなかった。大戦に全く興味がなかったわけではなく、広島、坂町、長崎の資料館にも行っていた。それなのに、知らないことだけだった。基地の大きさも初めて知った。

今年は、沖縄の日本復帰の為に尽力した瀬長亀次郎さんの事を知った。沖縄の友人は「有名な人」と資料館を案内してくれたのだが。

乃木坂スクールに来て、子宮頸がんワクチンの真実を知った。

ワクチン登場した時は、「良かった予防できるなら」と娘たちに勧めたが、娘たちは嫌がって受けていなかった。

どこかに甘い蜜があると、真実を捻じ曲げようとする。それはずっと繰り返されてきたというのに、連呼されていると簡単に騙されてしまう。毎日テレビで流れていると真実が捻じ曲げられたりしても気づかなくなってしまう。

〈あぁ、デイに勤務していたときに、家族から「入院出来てよかった」と聞いた時、良かったですねと答えていた私がいる。〉

それに気づかせてくれるのが、ゆき先生。

多種多様なゲストによって、真実の目は磨かれる。

きれいなベールに包まれた表とは似つかない中身があると教えてくれる。

毎週は出席できないけれど、少しでも学びたいと思っている。